

BECC JAPAN 2024

開催結果報告



2024年11月

 **開催日**

2024年9月19日(木)

 **開催形態**

会場開催(一部オンライン配信)

(会場:東京大学生産技術研究所)

 **主催**

気候変動・省エネルギー行動会議

 **協賛**

大阪ガス株式会社、東京ガス株式会社、電気事業連合会、日本ガス体エネルギー普及促進協議会、西部ガス、東邦ガス、積水ハウス

 **後援**

- 国土交通省
- 経済産業省
- 環境省
- エネルギー・資源学会
- 日本エネルギー学会
- 空気調和・衛生工学会
- 地球温暖化防止全国ネット
- 省エネルギーセンター
- 日本家政学会
- 日本建築学会

9月19日(木)10:30~17:00 会場開催

時間	プログラム
10:30 ~ 11:00	開会挨拶・来賓挨拶（経済産業省、国土交通省、環境省）
11:00 ~ 12:00	基調講演（studio-L代表／関西学院大学建築学部教授 山崎亮氏） 「気候変動×コミュニティデザイン：持続可能なまちづくり」
12:00 ~ 13:30	昼休憩 ネットワーキングランチ
13:30 ~ 14:00	ライトニングトークセッション
14:10 ~ 14:40	ポスターセッション①
14:45 ~ 15:15	ポスターセッション②
15:20 ~ 15:50	ポスターセッション③
16:00 ~ 17:00	特別セッション「消費者の脱炭素アクションを促すサービスの最前線： デカボスコアとNature Remoが導く未来」
17:10 ~ 18:30	交流会



山崎 亮 氏

- ◆ studio-L代表。関西学院大学建築学部教授。コミュニティデザイナー。社会福祉士。
- ◆ 1973年愛知県生まれ。大阪府立大学大学院および東京大学大学院修了。博士(工学)。建築・ランドスケープ設計事務所を経て、2005年にstudio-Lを設立。地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる。まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画づくり、市民参加型のパークマネジメントなどに関するプロジェクトが多い。
- ◆ 著書に『コミュニティデザインの源流(太田出版)』、『縮充する日本(PHP新書)』、『ケアするまちのデザイン(医学書院)』、『地域ごはん日記 おかわり(建築ジャーナル)』などがある。

著書一覧 <https://note.com/yamazakiryo/n/n5e1ea1f4979e>
YouTubeチャンネル <https://youtube.com/c/山崎亮99>

商品やサービスの排出CO2相当量の”削減率”を「[デカボスコア](#)」として分かりやすく可視化するEarth hacksと、スマートリモコンの「[Nature Remo](#)」シリーズを通じて家庭のエネルギーマネジメントを推進するNature、両社のトップをパネリストとしてお迎えします！”社会のために良いこと”である脱炭素行動をサービス化する秘訣や、今後の展望を語っていただきます。



関根 澄人 氏

[Earth hacks株式会社](#) 代表取締役社長 CEO

2009年東京工業大学大学院生体システム専攻修了。環境問題を生活者に伝えていくことを仕事にしたいと思い、博報堂に入社。様々な企業のブランディングや商品マーケティング業務を担当。2022年にEarth hacksを博報堂と三井物産の共同ビジネスとして立ち上げ、2023年にEarth hacks株式会社を設立。経済産業省『産業競争力強化及び排出削減の実現に向けた 需要創出に資するGX製品市場に関する研究会』委員を務める。



塩出 晴海 氏

[Nature株式会社](#) 代表取締役

13才の頃にインベーダーゲームを自作。2008年にスウェーデン王立工科大学でComputer Scienceの修士課程を修了、その後3ヶ月間洋上で生活。三井物産に入社し、途上国での電力事業投資・開発等を経験。2016年ハーバード・ビジネス・スクールでMBA課程を修了。ハーバード大在学中にNatureを創業。

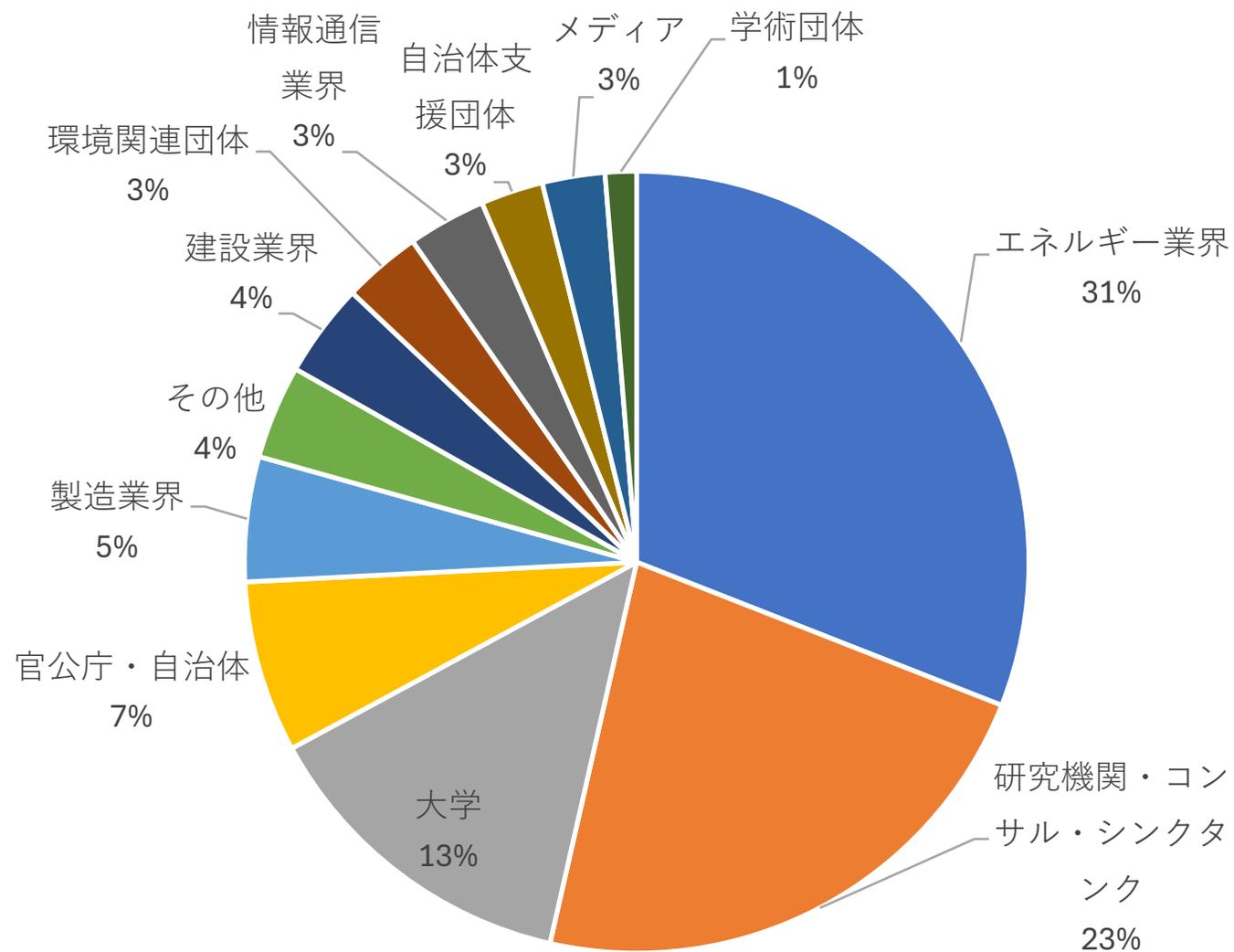
BECC JAPANコンファレンスの参加者数

過去開催の参加者、講演・発表件数実績

会議名	開催日程	開催場所	参加者数	講演・発表件数
BECC JAPAN 2024	2024/9/19	東京大学生産技術研究所	155名	21件
BECC JAPAN 2023	2023/8/30	早稲田大学 西早稲田キャンパス	148名	36件
BECC JAPAN 2022	2022/7/27-28	前夜祭(会場+オンライン) 本会議(オンライン開催)	前夜祭:244名 本会議:210名	46件
BECC JAPAN 2021	2021/8/31	オンライン開催	267名	36件
BECC JAPAN 2020	2020/8/25	オンライン開催	234名	33件
BECC JAPAN 2019	2019/8/22-23	東京大学生産技術研究所An棟	241名	55件
BECC JAPAN 2018	2018/8/23-24	一橋大学 一橋講堂	211名	35件
BECC JAPAN 2017	2017/9/5-6	JA共済ビル コンファレンスホール	218名	39件
BECC JAPAN 2016	2016/9/6-7	慶應義塾大学 三田キャンパス南校舎	232名	43件
BECC JAPAN 2015	2015/9/8-9	一橋大学 一橋講堂	214名	35件
BECC JAPAN 2014	2014/9/16-17	東京大学 伊藤国際学術研究センター	249名	22件
第1回省エネルギー行動研究会 シンポジウム	2014/2/14	東京大学 工学部2号館	180名	3件

BECC JAPANコンファレンスの参加者層

BECC JAPAN 2024の参加者層

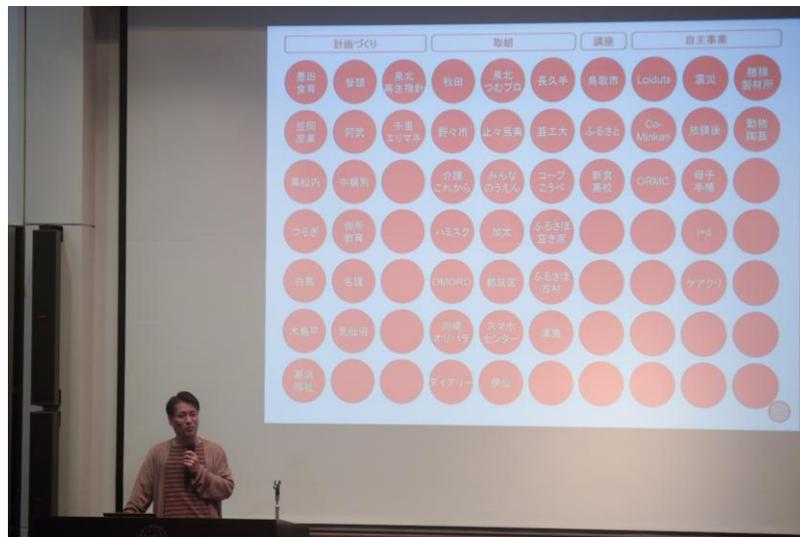


BECC JAPAN 2024 参加者属性(155名)

BECC JAPAN 2024の様子



開会挨拶



基調講演



ポスター発表



ライトニングトークセッション



ネットワーキングランチ



特別セッション

BECC JAPANコンファレンスへの参加回数

- 「初参加」が48%で最多、次いで「5回以上」が21%、「2回目」が17%である。

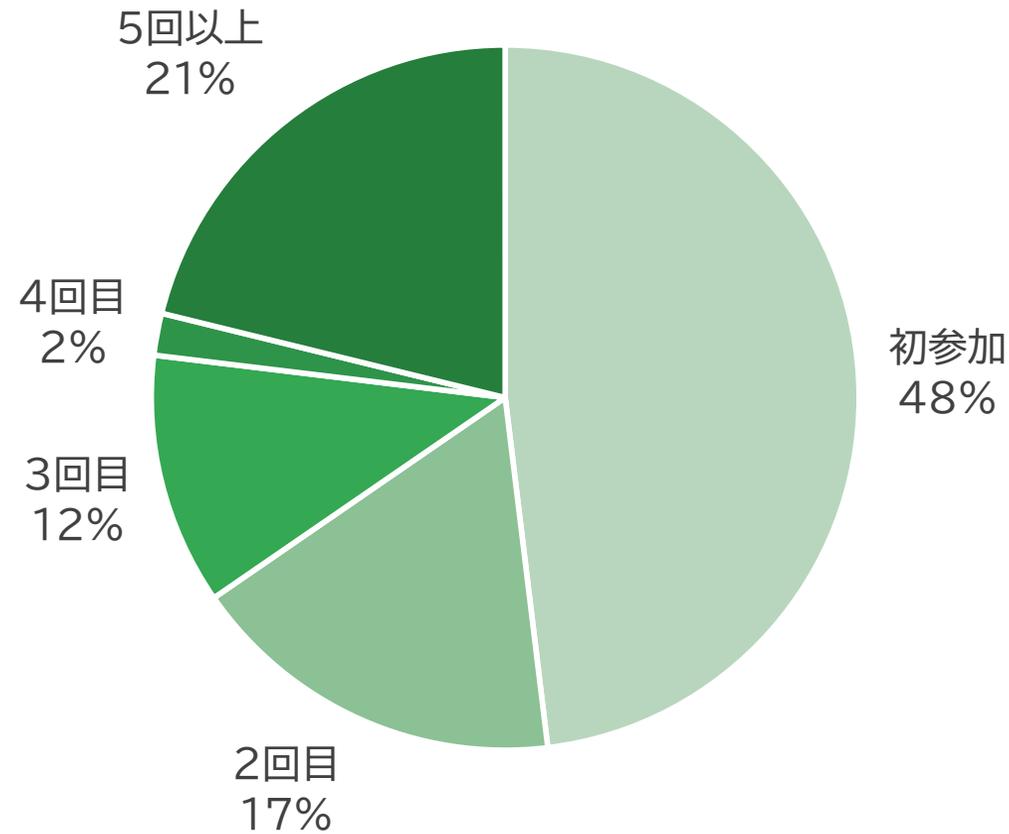


図. BECC JAPANコンファレンス への参加回数 (n=52)

開催に関する情報源

- 初参加では「知人、発表者からの紹介」、2回目以降は「気候変動・省エネルギー行動会議からのご案内」が最も多い。

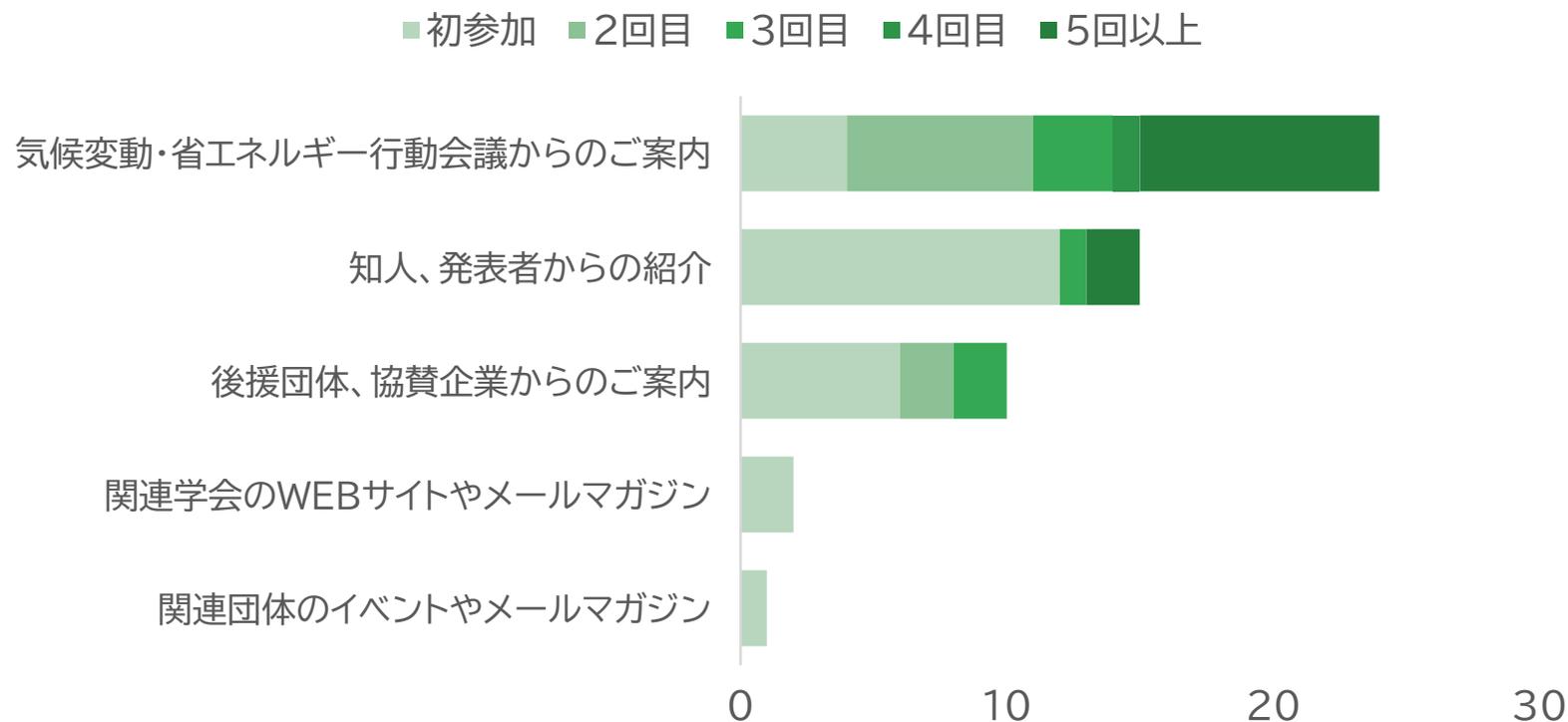


図. BECC JAPAN 2024の開催は何で知りましたか？ (n=52)

🍃 ポスターセッションの関心度

- ポスターセッションのうち関心度の高かった発表の上位5件は下記であった。

ポスターセッション	
P-03	木村 康代(東京ガス) 『30代ファミリー世帯の世代特徴および環境意識』
P-02	鶴崎 敬大(住環境計画研究所) 『夫婦共働き世帯のCO ₂ 排出量とライフスタイルの特徴—令和3年度「家庭部門のCO ₂ 排出実態統計調査」の分析』
P-16	松岡 佑磨(芝浦工業大学大学院) 『集合住宅における電力負荷平準化に関する研究—中間期・夏期のDR実証における電力需給の最適化』
P-08	小林 美保(日立製作所) 『オフィスにおける節電意識を醸成する節電宣言ボード』
P-07	杉浦 淳吉(慶應義塾大学) 『ゲーミフィケーションとしてのウルトラ省エネかるたの開発と効果—サステナビリティをテーマとするゲームの比較を通じて』

🌿 BECC JAPAN 2024で新たに知り合った人数

- 9割以上が新たなネットワークを構築しており、7割以上は4人以上新たな知り合いを作っている。
- 本コンファレンスが参加者の交流促進に有効であったことがうかがえる。

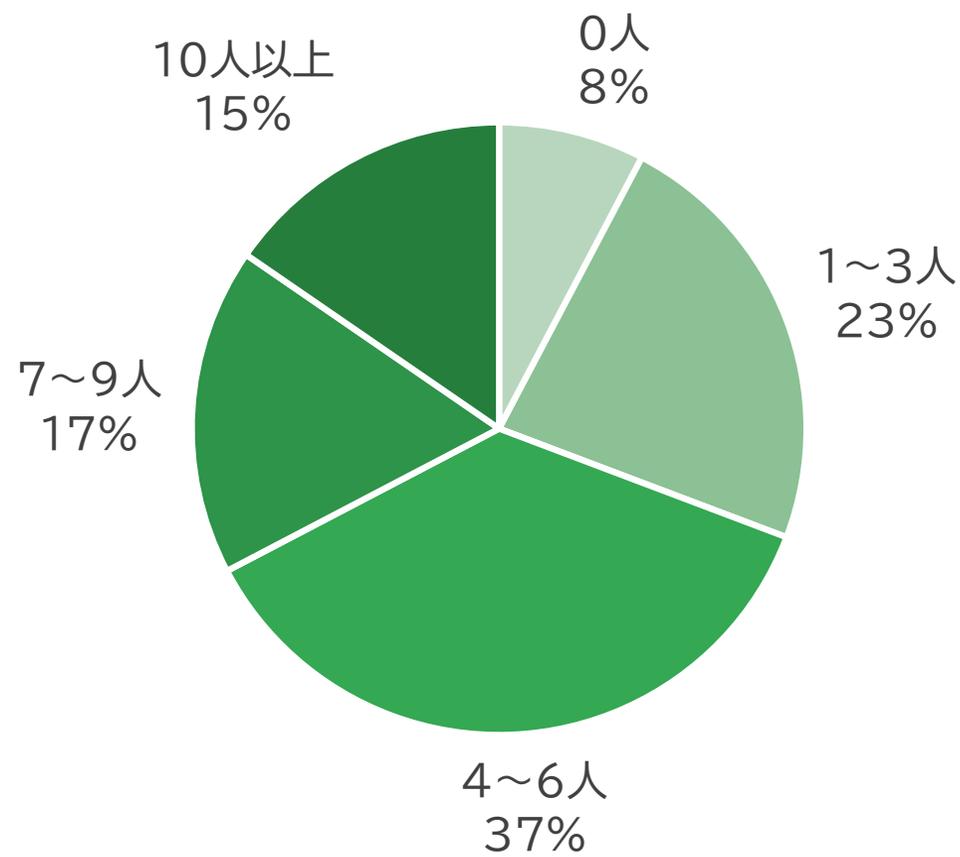


図. 今回のBECC JAPAN 2024で新たに知り合った人数(n=52)

BECC JAPAN 2024の満足度／今後の参加意向

- BECC JAPAN 2024の満足度は「満足」、「やや満足」が98%。
- 今後のコンファレンス参加意向では「参加したい」、「やや参加したい」が全体の9割以上であった。

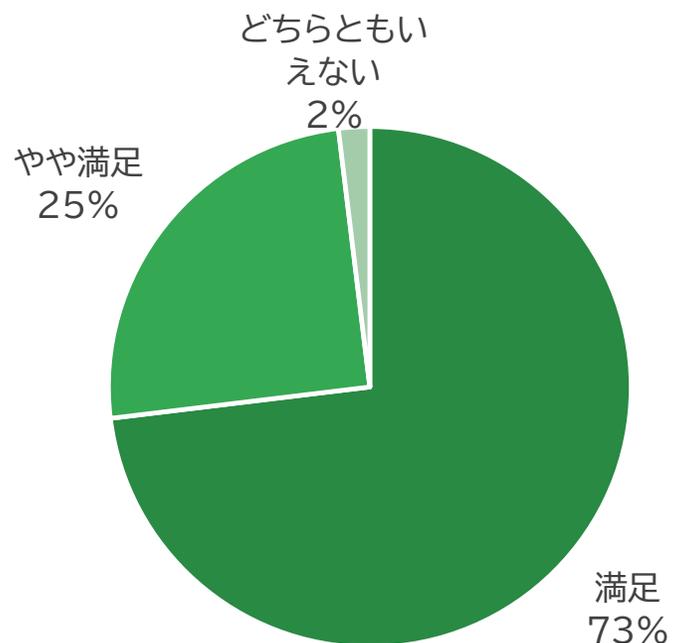


図. 今回のBECC JAPAN 2024の満足度(n=52)

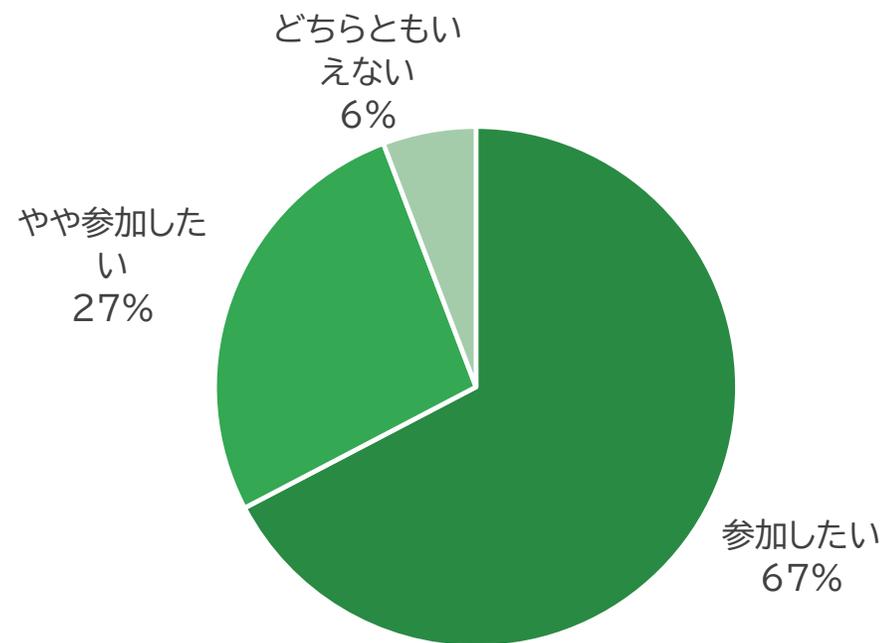


図. 今後のBECC JAPANコンファレンス参加意向(n=52)

自由回答の概要

- 自由回答の内容をテーマ別に整理して示す。

基調講演

思っていた内容とは異なり、**基調講演の内容、講師の方のお人柄が素晴らしかった**です。日常業務にも活かせる考え方がたくさんありました。

基調講演の山崎様と名刺交換できなかったことだけが心残りです。

ネットワーキングランチ

新しい**ランチの交流会非常によかった**です

ネットワーキングランチは、**ゲームをしながらつながりを深められるとても良い企画**だと思いました。

ネットワーキングランチは**新たな試みだが、初めての人と話をする事ができて良かった**と思う。時間配分は、今回ぐらいでちょうど良かった。

ライトニングトークセッション、ポスターセッション

ライトニングがとてもよかったです！一分という時間も、いい感じに「もっと知りたい」というところで終わって絶妙でした。

ポスターセッションは全部まわりきれなかったのもう少し長いとありがたいです。

ポスターセッションの始まり終了が不明確。ライトニングが終わって自然に始まった感じ。3グループに分けた意味がなかった。

参加者全員に来てもらえるという意味では、**ライトニングのような発表を充実するべき**。

ポスターとの併用でも良いがライトニングをもう少し長くして、内容がわかるようにし、詳しく知りたい人はポスターへ、という流れか。

個人発表がポスター発表だけなのが少し物足りなかった。口頭発表もあった方がよいのではないだろうか。

自由回答の概要

- 自由回答の内容をテーマ別に整理して示す。

その他プログラム全般

毎回企画にご苦労されていることと存じますが、**来年度はどのような出会いと学びが得られるか、今から楽しみに**しておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

講演、ポスターセッション、ランチ交流、交流会とひとつひとつの内容が良かったのはもちろんですが、**会場がまとまっており全てが一体感を持って参加・体験でき、効率的に情報を得ることができました。**大変お世話になりました。

交流会の席でも話題になっていましたが、**毎年少しずつ変わっていているのがよい**と思います。次回は何が変わっているかなと参加が楽しみになります。大変お疲れさまでした。

毎回、**新しい企画を導入いただき、楽しく参加**させていただいております。準備や当日の運営など大変かと存じますが、来年もよろしくお願いいたします。

毎年貴重な機会ありがとうございます。**同じ興味関心をもつ方々と交流できてとても楽しかった**です。

運営に関わられた皆さま、大変お疲れさまでございました。昨年度は、学生さんの参加が目立っていた印象、**今年度は、初めて参加される方が多い印象**をうけました。

会場の場が分かりにくく、辿り着くまでに苦労しましたが、**内容そのものは良かった**です。

省エネ行動変容の分野の議論が活性化することを期待しています。

参考資料

概要

行動科学の知見は、近年注目を集めており、公共政策分野にも広く応用されています。米国では、こうした知見を集約し、行動変容を促す効果的なアプローチを議論する場として、2007年からBECC(Behavior, Energy and Climate Change) Conferenceが開催されています。

BECC JAPANは、日本版BECCとして2014年に始まりました。環境・気候変動・省エネルギーに関する行動の理解と行動変容に取り組む人々が集まるコミュニティを目指しています。

毎年夏に開催するコンファレンスでは、多様な分野の専門家が集い、協働して持続可能な未来を目指すためのプラットフォームを提供しています。

主催

気候変動・省エネルギー行動会議

(事務局:株式会社 住環境計画研究所)

ベック・ジャパン

第11回 気候変動・省エネルギー行動会議

BECC JAPAN 2024



Mission

環境・気候変動・エネルギーに関する行動の理解と行動変容に取り組む人のコミュニティを形成すること。

Vision

多分野の研究者と、企業・自治体等に所属する行動変容の実践者等のBECC JAPANの参加者同士が、発表と意見交換を通じて互いに刺激し合うことで、革新的なアイデアや技術が生まれ、新たな協働プロジェクトが創出されること。

Value

環境・気候変動・エネルギーに関わる産官学メンバーの交流を促進し、協働を促進する場を作ること。

BECC JAPANの活動概要 ①BECC JAPAN コンファレンス

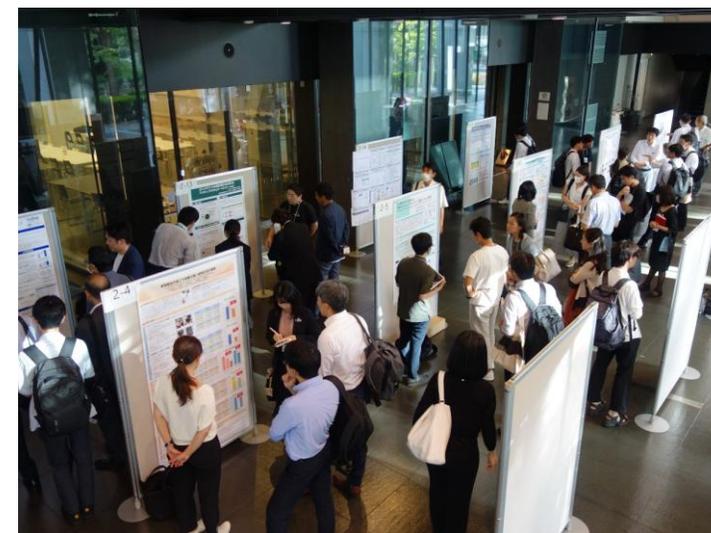
BECC JAPAN コンファレンスは、環境・気候変動・省エネルギーに関する行動の理解と行動変容に取り組む研究者や実践者が一堂に会して情報交換・議論を行う場として、2014年より毎年夏に開催。

BECC JAPAN コンファレンス

プログラム	概要
基調講演	<ul style="list-style-type: none">関連分野の専門家による招待講演を実施。海外の関連コンファレンスである欧州のBEHAVEや、米国のBECCの関係者も定期的に招集して、海外知見の国内展開も行っている。
一般公募による研究・事例発表	<ul style="list-style-type: none">環境・気候変動・省エネルギー分野における人間の行動・意思決定に着目した研究成果や取り組み事例、アイデア等の発表を広く募集し、口頭発表やポスター発表を行う。投稿された発表要旨は、有識者から構成されるプログラム委員会による審査を行うことで、発表内容の水準確保に努めている。
特別セッション	<ul style="list-style-type: none">気候変動の動向や社会ニーズに応じて様々な内容やテーマを設定して開催。ゲーミングシミュレーションを行うワークショップや、スマートタウンの施設見学会、スタートアップや地方自治体を交えたパネルディスカッション、海外専門家の招待講演などを実施。
交流会	<ul style="list-style-type: none">参加者同士のネットワーキングの場を提供。



基調講演



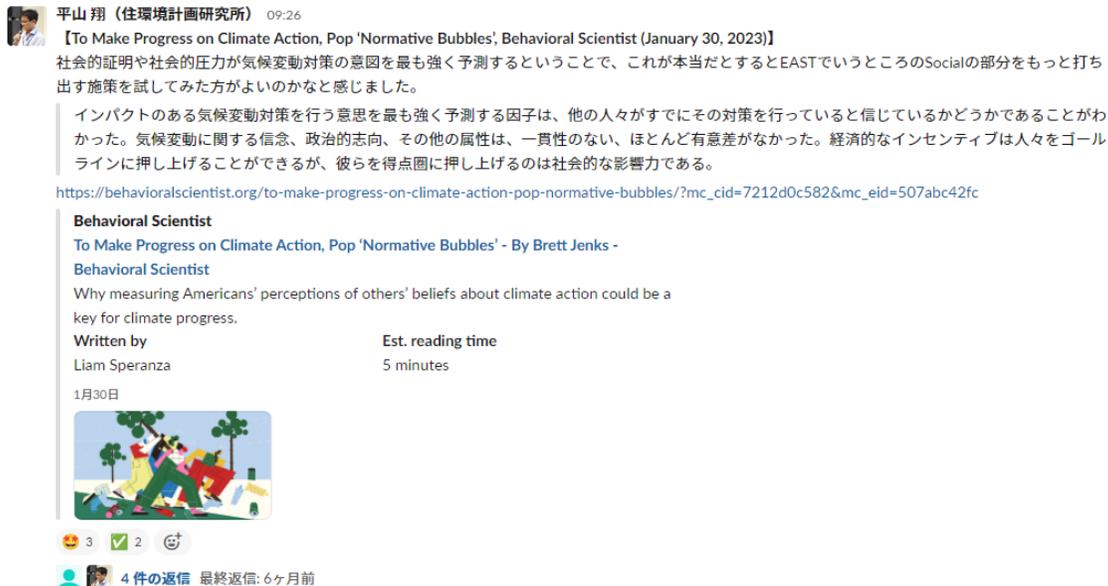
ポスター発表

BECC JAPANの活動概要 ②BECC JAPAN Plus

昨今のオンライン環境の充実化や、BECC JAPAN参加者の日常的な情報交換・ネットワーキングの場への期待を踏まえ、時勢やニーズに合わせたあり方を模索するためのPlusな試みとして、2022年6月にオンラインコミュニティをSlack上に開設。全国の官公庁職員等が運営する政策ナッジの推進拠点 NPO法人PolicyGarageと連携して運営。

Slackコミュニティ

チャットツールSlack上でのオンラインコミュニティ。環境と行動変容に関するイベント・記事・論文・報告書などの情報交換や、参加者間でのコラボレーションを募集するチャンネルを設定し、参加者間での交流を行う。



平山 翔 (住環境計画研究所) 09:26
【To Make Progress on Climate Action, Pop 'Normative Bubbles', Behavioral Scientist (January 30, 2023)】
社会的証明や社会的圧力が気候変動対策の意図を最も強く予測するということが、これが本当たとするとEASTでいうところのSocialの部分をもっと打ち出す施策を試してみた方がよいのかなと感じました。
インパクトのある気候変動対策を行う意思を最も強く予測する因子は、他の人々がすでにその対策を行っているかという点にあることがわかった。気候変動に関する信念、政治的志向、その他の属性は、一貫性のない、ほとんど有意差がなかった。経済的なインセンティブは人々をゴールラインに押し上げることができるが、彼らを得点圏に押し上げるのは社会的な影響力である。
https://behavioralscientist.org/to-make-progress-on-climate-action-pop-normative-bubbles/?mc_cid=7212d0c582&mc_eid=507abc42fc
Behavioral Scientist
To Make Progress on Climate Action, Pop 'Normative Bubbles' - By Brett Jenks - Behavioral Scientist
Why measuring Americans' perceptions of others' beliefs about climate action could be a key for climate progress.
Written by Liam Speranza Est. reading time 5 minutes
1月30日
3 2
4件の返信 最終返信: 6ヶ月前

情報交換チャンネルの例

オンライン交流会

コミュニティメンバーの知見共有や交流促進を図る場として、およそ3か月ごとに開催。行政セクターのナッジ活用や、環境省グリーンライフポイント事業参加者の取組共有などをテーマに、参加者からの話題提供とインタラクティブな意見交換を実施している。

- オープニング、参加者の自己紹介 **10min**
- 話題提供 -グリーンライフポイントの取組み- **60min**



福岡 真理子 氏
一般社団法人
あきた地球環境会議
あきた市地球温暖化
防止活動推進センター
事務局長



富田 健二氏
堺市環境局カーボン
ニュートラル推進部
環境政策課
課長補佐・
堺市環境行動デザイン
チームSEEDs
メンバー



定塚 達郎 氏
楽天グループ株式会社
ユマースカンパニー
地域創生事業
パブリックアカウント営業課
マネージャー

- 参加者間での情報交流 **20min**
- クロージング **5min**

☆ 終了後、オンライン懇親会を予定しています(～21:30)

第3回 交流会「グリーンライフポイントの取組」

過去の発表テーマキーワード



BECC JAPAN コンファレンスのこれまでの開催情報

過去の開催概要

	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度
開催方法	会場	オンライン	オンライン	オンライン	会場
会場	早稲田大学 西早稲田 キャンパス 63号館	Zoom	Zoom	Zoom	東京大学 生産技術研究所
参加人数	148名	前夜祭244名 本会議210名	267名	234名	241名
基調 講演者	佐々木 周作 氏 大阪大学 感染症総合教育研究拠点 科学情報・公共政策部門 行動公共政策チーム 行動経済学ユニット 特任准教授	Reuven Sussman氏 BECC 共同議長/ACEEE Behavior & Human Dimensions of Energy Efficiency部門ディレクター	太刀川 英輔 氏 NOSIGNER代表 慶應義塾大学特別招聘准教授	川上 浩司 氏 京都大学情報学研究科 特定教授	武山 政直 氏 慶應義塾大学経済学部 教授
講演 テーマ	利他と利己の経済学	BECC and Beyond: Fighting Climate Change through Research and Community	進化思考:変異と 適応によって高める 共生的な創造性	不利益のススメ	行動変容のための サービスデザイン



ベック・ジャパン

第11回 気候変動・省エネルギー行動会議

BECC JAPAN 2024



環境を変えてきた
社会を、

いつだって
消費者の行動が

2024. 9.19 [thu] 10:30-17:00

会場：東京大学 生産技術研究所 An棟 (東京都目黒区駒場)

▼参加費
会場参加 一般：15,000円 / 自治体職員・学生：7,000円 / 交遊会：3,000円
※基礎講演やポスター発表などのプログラムの他、ネットワーキングランチ(会場)に参加いただけます。昼食は、アーカイブ配付のメニューが利用可能です。
オンライン参加 3,000円
※当日の一部プログラムのリアルタイム配信アーカイブを視聴できます。

▼参加申込
以下のURLまたはQRからイベントページにアクセスして参加登録をお願いします。

<https://beccjapan2024.peatix.com>



申込締切
9.19 [thu]
10:00まで
※申込料は24,120円(税込)です

▼基調講演

「気候変動×コミュニティデザイン：持続可能なまちづくり」

山崎 亮氏

(studio-L代表・コミュニティデザイナー)

主催 気候変動・省エネルギー行動会議

協賛 エネルギー・資源学会

協賛 国土交通省



お問い合わせ 気候変動・省エネルギー行動会議
事務局 (株) 住環境計画研究所 / Mail: info@seeb.jp Web: https://seeb.jp/



BECC JAPAN とは？

行動科学の知見は、近年ますます注目を集めており、公共政策分野にも広く応用されています。米国では、こうした知見を集約し、行動変容を促す効果的なアプローチを議論する場として、2007年からBECC (Behavior, Energy and Climate Change) Conference が毎年開催されています。

BECC JAPANは、日本版BECCとして2014年に始まりました。環境・気候変動・省エネルギーに関する行動の理解と行動変容に取り組み人々が集まるコミュニティを目指しています。このコンファレンスでは、多様な分野の専門家が集い、協働して持続可能な未来を目指すためのプラットフォームを提供しています。



基調講演 「気候変動×コミュニティデザイン：持続可能なまちづくり」



講演者
山崎 亮氏

講演者プロフィール

studio-L代表、碩高学院大学建築学専攻教授、コミュニティデザイナー、社会福祉士。1973年愛知県生まれ。大阪府立大学大学院および東京大学大学院修了。博士(工学)。建築・ランドスケープ設計事務所を経て、2005年にstudio-Lを設立。地域の課題を地域に住む人々が解決するためのコミュニティデザインに携わる。まちづくりのワークショップ、住民参加型の総合計画づくり、市民参加型のパークマネジメントなどに関するプロジェクトが多い。著書に「コミュニティデザインの潮流(太田出版)」、「読む日本(PHP新書)」、「ケアするまちのデザイン(医学書院)」、「地域ごはん日記 おかわり(建築ジャーナル)」などがある。

著書一覧 <https://note.com/yamazakiryofu/n5e1ea1f4979e>
YouTubeチャンネル <https://youtube.com/c/山崎亮99>

PROGRAM

- 10:30-11:00 開会挨拶・来賓挨拶
 - 11:00-12:00 基調講演
「気候変動×コミュニティデザイン：持続可能なまちづくり」山崎 亮氏
 - 12:00-13:00 ネットワーキングランチ
 - 13:30-14:00 ライトニングトークセッション
 - 14:00-15:30 ポスターセッション
 - 16:00-17:00 特別セッション
「環境配慮行動を促す持続可能なまちづくり - 分野別の取組事例紹介 - (仮)」
 - 17:10-18:30 交流会 (会場 生産技術研究所 An棟 302号)
- ※プログラムの内容は変更になる場合があります。

MAP



ACCESS

- 小田急線・東京メトロ千代田線/代々木上原駅より徒歩12分
 - 小田急線/東北沢駅より徒歩8分。京王井の頭線/駒場東大前駅西口から徒歩10分
 - 京王井の頭線/池ノ上駅より徒歩10分
- ※会場のAn棟へは東門(南西側)・駒場東大前が最も近いです。アクセス経路については生産技術研究所のWEBページよりご確認ください。

本コンファレンスの詳細については、BECC JAPANのWebサイトを随時更新しております。

<https://seeb.jp/eventcontents/5265>